

2025.06.19

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
令和 6 年度事業報告書

事業環境

令和 6 年度は、「改訂 4 版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」を最大限に活用した、「価値共創のプログラム・プロジェクトマネジメントの普及と活力ある社会の醸成への貢献」を基本方針として活動した。その結果として、改訂 4 版標準ガイドブックは予定通り 9 月に発行でき、その後の PMAJ の活動の活性化に大きく貢献したと考えている。

具体的には、プロモーションのための様々なイベントが開催でき、結果としてメディアや他の PM 関連団体から注目を浴びたり、新しい試験内容への移行作業により資格試験制度への関心が高まったり、改訂 4 版標準ガイドブックへの関心の高まりから新しい SIG の発足につながるなどの効果がみとめられた。令和 7 年度に向けて、この動きをより活性化させ、確実に PMAJ 活性化の動きにつなげて行きたいと考えている。

個々の取り組みにあたっては、PM シンポジウムにおいては、企業の担当窓口に早期に事前 PR を行ったことなどにより、昨年度以上の参加申込者を得ることができた。また、シンポジウム、各セミナー等で、ガイドブック関連講演を開催するなど、改訂 4 版標準ガイドブックを前面に出した活動を推進した。

資格試験・講習・研修においては、PMC・PMS 試験の受験者数及び講習会参加数は 2009 年以降最高の値となった。また、2025 年秋からの改訂 4 版標準ガイドブックに沿った資格・試験制度の適用に向けて、試験問題作成やテキスト改訂に向けた取組を行った。

会員については、法人会員は 5 社増となり計画を上回ったが、個人会員は現状維持となり、減少傾向に歯止めが掛かりつつあるが、目標には達しなかった。

1. 全般運営

(1) 総会・理事会の開催

- ① 通常総会 1 回、定例理事会 4 回をオンラインで開催した（表 7、表 8 参照）。
- ② 運営会議を 11 回オンラインで開催した（表 9 参照）。

(2) 新役員の選任

6 月 20 日（木）開催の定時総会において、退任に伴う交代理事 2 名が選任された。この結果、理事総数は変更なく 46 名となった。

2. PMAJ 施策

(1) 会員（法人、個人）

- ・法人会員は退会 2 社、新規入会 7 社（うち 1 社は特別会員新規入会）で、法人会員総数は 5 社増の 93 社となり、計画の 90 社を上回った。
- ・個人会員は、先期同様の 820 名となり、減少傾向に歯止めが掛かりつつあるが、会員メリットの向上・浸透に至らない面があり、計画の 850 名には達しなかった、

- ・シンポジウム・セミナーでの PMAJ 紹介、入会勧誘ビデオの放映、会員への郵送物送付、SNS 活用、会員限定動画アーカイブスのコンテンツ充実、資格取得者への入会呼びかけ、部会 SIG 活動を通した呼びかけなど会員増強施策を継続して実施した。また、個人会員向けのコンテンツを充実させるなど会員メリットのさらなる向上、若手 PM に向けた「悩める PM 相談コーナー」の設置、賀詞交歓会、会員向けの無料セミナー（受講証明書の発行）、などを実施した。

（２）部会・SIG 活動

- ・新 SIG として「博士人材と指導教員の醸成 SIG」、「P2M 標準ガイドブック改訂 4 版を学ぶ SIG」、「AI エージェント活用 PM SIG」の 3 つの SIG が開設された。
- ・「部会 SIG 会員活動交流タスク」を通して、部会・SIG 活動が円滑に運営できるようにサポートを行い、部会等の IT 担当者と連携し、ノウハウを共有して、自主運営体制を強化する会員活動の自主運営のための IT 化のツールとして Google Workspace を提供し、一部運用を開始した。
- ・PM シンポジウム 2024 において 9 の部会・SIG から会員活動講演を行った。
- ・部会 SIG、地域 PM 部会の活動内容を運営会議・理事会で報告し、状況の確認と活性化に向けた協議を行った。

（３）IT 化・DX 化

- ・Salesforce の登録データの充実・活用を図り、広報・マーケティングの効果拡大につなげた。
- ・シンポジウム受付システムの開発を行い、PM シンポジウム 2024 の受付を行った。
- ・会員ライブラリー、マイページを会員向けメリットの柱として検討を進めた。
- ・地域 PM 部会と Google Workspace の運用を開始した。

（４）広報・マーケティング

- ・メルマガ、PMAJ News、PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルの発行を行い、PMAJ の活動内容の発信、行事への参加者募集を行った。
- ・個人正会員宛に、紙媒体にて、PMAJ ジャーナル抜粋、コンテンツの充実の通知を行った。
- ・Google 広告・FaceBook 広告の継続、Youtube 動画配信、LinkedIn などの展開を図った。
- ・PM シンポジウム、各セミナーの幕間において、PMAJ の紹介・宣伝の動画を流した。また、PM シンポジウムにおいて P2M を紹介する講演を行った。

（５）P2M 標準ガイドブックの改訂（改訂 4 版の出版）

- ・予定通り「改訂 4 版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」を 9 月 10 日付で日本能率協会から発刊した（販売開始は 9 月 3 日）。
- ・改訂ポイントを抽出紹介した「P2M の栞」を作成して広く配付。PDF を HP 上に掲載したところ、200 件近くのダウンロードがあった。
- ・9 月 5 日の PM シンポジウム 2024 特別講演において、当麻哲哉改訂委員長より紹介講演を行うとともに、展示ブースにおいて、見本を展示した。
- ・改訂 4 版標準ガイドブックの普及・推進に向けて、法人会員向け講演、紹介講座の設定、ジャーナルでの特集、国際 P2M 学会・技術士会・デジタル庁・JUAU・IPA・建設プロ

ジェクト運営方式協議会などへのアピーを行った。また、P2M 普及推進部会とのコラボ、などを通して広報の推進を行った。

- ・ 2025 年秋から資格試験を改訂 4 版標準ガイドブック対応に切り替えるために、試験委員会を立上げ試験問題を作成した。また、講習会を改訂 4 版標準ガイドブック対応に切り替えるために講習会テキスト、理解度テストの作成を行った。

(6) 他団体との連携

- ・ 国際 P2M 学会との連携の一環として「博士人材と指導教員の醸成 SIG」を設立、プログラムマネジメント分野での博士人材育成に協力して取り組むこととなった。
- ・ PM 学会などの PM 関連学会との交流を図った。
- ・ 日本技術士会で PM に関する講演会を開催するとともに、技術士会会員に対し、PM シンポジウムでの割引を適用することとした。
- ・ エンジニアリング協会 (ENAA)、PMI 日本支部、JUAS、デジタル庁などとの交流を深めた。
- ・ 各地域大学、地方行政機構との交流を深めた。

(7) グローバル対応

- ・ 英文 HP は、グローバル PM-SIG と協力し、仕組み、教宣内容を協議し、協会から内外に如何に発信していくかを見直し改訂している。(協議継続)
- ・ GAPPS Thought Leadership Forum (TFL)への参加を継続し情報を教宣している。
- ・ PMI® ATP を継続し、PDU の発行、PMI®関連部会セミナーの実施を継続している。
- ・ PMI® と ENAA 及び PMAJ による 3 者協定 (覚書) のメリットを実現すべく、定期的な協議を行っている。
- ・ NIN2.P2M (Facebook) (2016/04---) にて PM 教宣の為に PMAJ の教材を英訳し毎週投稿。PMAJ 出版「プロジェクトの概念」の投稿 (2022/05-)を継続している。
- ・ 要請のあった GAPPS TLF 日本開催は、今年の PMAJ 結成 20 周年イベントとの重複も考慮し、2026 年 10 月初旬に GAPPS が開催する方向で検討を進めることになった。PMAJ として会場候補の検討などの支援を始める予定。

(8) 会員・資格者交流活動

- ・ 月 1 回ペースで PMAJ 交流会 (P2M クラブ、P-SE 交流会、夢工学サロン) を開催し、会員価値の向上に努めた。
- ・ ニーズのある特定テーマ「P-SE 交流会」については、成果物につなげるべく、議論を継続している。
- ・ 振り返りとして年末に「意識調査」を行い、現状の課題と今後の方向性を抽出した。

表 1【会員数】

	令和 6 年度 計画	令和 6 年度 上期実績	令和 6 年度 通期実績
法人会員	90 社	88 社	93 社
法人正会員	74 社	71 社	76 社
法人賛助会員	1 社	1 社	1 社
法人特別会員	15 社	16 社	16 社
個人正会員	850 名	773 名	820 名

表 2 <会員会費収入>

(単位：千円)

	令和 6 年度 計画	令和 6 年度 上期実績	令和 6 年度 通期実績
法人会員会費等収入	9,460	9,118	9,358
個人会員会費等収入	5,740	4,935	5,166
会費等収入計	15,200	14,053	14,524

3. PM 人材育成事業（P2M 資格試験・認定等）

（1）P2M 資格試験

- ・改訂 4 版標準ガイドブック出版後、個別メールか SNS 等で改訂 3 版ベースの駆け込み受験を PR したことが功を奏し P2M 資格合格者は例年の平均 400 名を上回り、2024 年度は 550 名になった。
- ・PMS 資格試験の応募者は、CBT 化後最高の 277 名となった。企業別には、「高度 PM 人材育成」を情報公開している企業、PSTC 提供の PMS 集合研修を受講した企業、P2M を活用した社内研修を実施している企業からの受験者が多かった。P2M を活用した社内研修を実施している企業には、シンポジウム 2024 で P2M 活用事例として講演していただいた。
- ・PMC 資格試験の応募者は、CBT 化後最高の 458 名となった。プロジェクトマネジメントに P2M を採用するとした PMS 資格者がトップにいる企業から、52 名の受験があり、大手電気関連企業から 31 名の受験があった。
- ・PMR 資格は、5 名増えて 110 名となった。1 社複数名となる施策を取り組んだが、成果がなかった。推薦者にインセンティブを与えるなど改善が必要である。
- ・PMS 試験委員会を立ち上げ、改訂 4 版標準ガイドブック対応の PMS 試験問題を作成した。

（2）P2M 講習会

- ・PMC 講習会は ITSM 関連企業、マネージャー育成のため受講した建築業、原子力関連団体の団体受講があり、過去最高となった（86 名/66 名、9,354 千円/7,348 千円、127%）。
- ・P2M プログラム知識習得講座は過去最高だった 2022 年 25 名に次ぐ 2 番目の記録となった（23 名/20 名、1,452 千円/1,320 千円、110%）。
- ・P2M 講習会全体の売上は計画値の 134%となった（16,690 千円/12,422 千円）。
- ・改訂 4 版標準ガイドブック出版後 1 年を目安に講習会を改訂 4 版対応に切り替えるために P2M 講師を中心に講習会テキスト、理解度テストを作成した。
- ・講習会のハイフレックス化に伴う業務（参加方法変更確認、録画編集と受講者への通知、アンケート集計と講師への連絡など）を Web 化し作業効率を向上させた。
- ・Google 広告の階層構造の見直し、検索用語、見出し本文の最適化を行い、表示回数 9.54 万件/年、クリック数を 1.13 万件/年、942 件/月に改善した。
また、P2M 豆本をダウンロードした人がミニ動画講座を購入する Web マーケティングの典型的な事例も出てきた。
- ・ミニ動画講座は累計販売数 1,088 本となった。また、Google 検索順位 1 位となった。

(3) 企業・団体・大学向け PM 講座

- ・団体向け海外人材育成のための PM 研修及び企業向けの PM 研修を実施した。

(4) その他講習（特別企画講座・共催講座）

- ・特別企画講座は、8 講座の開催予定に対して 7 講座開催した。
- ・共催講座は、共催企業と開催方式の改善や新規講座について協議し、下期に 1 講座増やし、共催企業提供の YouTube 動画を 8 本追加した結果、7 講座の申込を得た。

表 3 【P2M 資格試験 応募者数】

資格試験種類	令和 6 年度 計画	令和 6 年度 上期実績	令和 6 年度 通期実績
PMS 資格試験	170 名	48 名	277 名
PMS プログラム試験	120 名	38 名	160 名
(PMS 計)	290 名	86 名	437 名
PMC 資格試験	390 名	199 名	458 名
PMR 資格一次試験	7 名	2 名	2 名
PMR 資格二次試験	6 名	0 名	5 名

表 4 【P2M 講習会 受講者数】

講習会種類	令和 6 年度 計画	令和 6 年度 上期実績	令和 6 年度 通期実績
PMC 講習会	66 名	41 名	86 名
e ラーニング	344 名	248 名	442 名
P2M プログラム知識習得講座	20 名	6 名	23 名
e ラーニング	56 名	54 名	118 名
PMR 養成研修	7 名	3 名	3 名

表 5 【PM 人材育成事業収入】

(単位：千円)

	令和 6 年度 計画	令和 6 年度 上期実績	令和 6 年度 通期実績
P2M 資格試験	22,045	9,027	29,824
P2M 講習会	12,422	7,883	16,690
企業・団体・大学等向け PM 講座	10,210	3,900	10,431
各種 PM 講座（PMP 関連、特別、共催）	2,150	1,019	2,321
事業収入計	46,827	21,829	59,266

4. P2M に関する普及・啓蒙事業

(1) PM シンポジウム

一般に行われている各種講演会において、メディア等が主催する無料講演会が増加していることがシンポジウムの参加者に影響するのではないかと考え計画を立てたが、企業の担当窓口に早期に事前 PR を行ったこと、特定企業グループの PM コミュニティへの積極的参加案内のお陰により、昨年以上の参加申込者（1,241 名、前年実績 1,222 名）とな

った。

本年度更新した受付システムについては、次年度の課題を残す結果となったが、本システムは PMAJ 最大の収益を左右するシステムであり、PMAJ 創業 20 周年となる PM シンポジウム 2025 には、万全の稼働体制で挑む。

(2) 東京地区開催の PM セミナー

2017 年に始め、7 回開催した産学官連携 PM セミナーを発展的に改め、PMAJ の P2M をより強く打ち出した“新しい教養 P2M セミナー2024”を 11 月 8 日に開催し、セミナー終了後に法人正会員の人材育成担当者と講師の方々との情報交換会を実施。経営環境の激しい変化を克服する為、いずれの企業も人材育成が課題であり有意義な交換会となった。

新春 PM セミナーを新年 1 月 26 日に開催、本セミナー終了後に“賀詞交歓会”は PM コミュニティづくりの場として、盛況であった。

PM セミナーは PM コミュニティの場となるよう努めていく。

(3) 地域開催の PM セミナー

上期は、5 月 31 日に関西 PM セミナー参加申込＝80 名（前年＝111 名）、7 月 12 日に北海道 PM セミナー参加申込＝97 名（前年＝110 名）を開催し。下期には、10 月 11 日中部 PM セミナー参加申込＝55 名（前年＝40 名）、10 月 25 日中四国 PM セミナー参加申込＝43 名（前年＝27 名）、12 月 6 日九州 PM セミナー参加申込＝68 名（前年＝55 名）。各地域 PM 研究部会ボランティアの皆様の活動取組の成果が如実に出てきている。

また九州 PM セミナー前日には、全国 7 つの各研究部会の代表・副代表が出席し地域研究部会の全国大会を実施。PM コミュニティづくりをはじめ、各地域ごとの取組みを発表・情報交換懇親会を行った。

(4) 例会

部会・SIG 活動の成果発表を 4 回組み込み、毎月開催した（東京 9 回、関西 3 回）。また、2 月には東京地区 300 回記念大会を開催し、60 人を超える参加者となった。

表 6 【P2M 普及・啓蒙による事業収入】

(単位：千円)

	令和 6 年度 計画	令和 6 年度 上期実績	令和 6 年度 通期実績
PM シンポジウム	31,005	35,445	35,445
東京地区 PM セミナー	3,000	0	3,328
地域の PM セミナー	2,000	∵	2,024
月例会 書籍販売等	5,805	2,063	3,011
事業収入計	41,810	38,295	43,808

表 7. 総会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2024.6.20	通常総会	423 名	令和 5 年度事業報告(案)および決算報告(案) の件 令和 6 年度事業計画(案)および収支予算(案) の件 役員候補者選任の件 (案)	可決 可決 可決

表 8. 理事会

回	開催日	区分	出席者	議案	可否
1	2024.6.6	定例	37 名	令和 5 年度事業報告及び収支実績について	承認
				令和 6 年度事業計画及び予算について	承認
				役員候補者選任の件	承認
				P2M ガイドブック改訂状況について	承認
				PM シンポジウム 2024 状況報告	承認
				PMAJ イベント状況報告	承認
				部会・SIG 活動状況及び地域 PM 研究部会活動状況について	承認
				会員状況について	承認
2	2024.10.17	定例	37 名	令和 6 年度上期事業報告について	承認
				PM シンポジウム 2024 結果報告及び PMAJ イベントの状況について	承認
				新 SIG の発足と部会・SIG 活動状況報告及び地域 PM 研究部会活動状況報告	承認
				P 2 M標準ガイドブック改訂 4 版刊行について	承認
				会員状況について	承認
4	2024.12.19	定例	37 名	令和 6 年度第 3 四半期及び通期事業見通しについて	承認
				PM シンポジウム 2024 アンケート結果及び PM シンポジウム 2025 の状況について	承認
				新春セミナー及び賀詞交歓会概要と PMAJ イベントの状況について	承認
				新 SIG 発足と部会・SIG 活動状況報告及び地域 PM 研究部会活動状況報告	承認
				P2M 標準ガイドブック改訂 4 版の普及・推進について	承認
				会員状況について	承認
5	2025.3.21	定例	44 名	令和 6 年度通期事業見通しと令和 7 年度事業計画骨子について	承認
				PMCe 資格を含めた P2M 資格体系の提案及び日本プロジェクトマネジメント資格要綱の改訂	承認
				PM シンポジウム 2025 状況報告	承認
				PMAJ イベント状況について	承認
				部会・SIG 活動状況報告及び地域 PM 研究部会活動状況報告	承認
				P2M 標準ガイドブック改訂 4 版の普及・推進について	承認
				会員状況について	承認

表 9. 運営会議

回	開催日	備考
1	2024.4.16	
2	2024.5.21	
3	2024.6.18	
4	2024.7.16	

回	開催日	備考
5	2024.9.17	
6	2024.10.15	
7	2024.11.19	
8	2024.12.17	

回	開催日	備考
9	2025.1.21	
10	2025.2.18	
11	2025.3.18	

表 10. P2M 講習会実施状況（受講者数推移）

開催月	PMC 講習会	P2M プログラム 知識習得	PMR 養成研修
5 月	14 名	2 名	—
7 月	15 名	2 名	—
9 月	12 名	2 名	3 名
11 月	22 名	8 名	
1 月	15 名	8 名	
3 月	8 名	1 名	
計	86 名	23 名	3 名

表 11. PM 一般研修

区分	開催日	テーマ等	参加者
PMBOK 関連講座	2024.9.21	第 46 回 PMBOK (R) ガイド基礎講座	5 名
	2024.10.19	第 5 回 PMBOK (R) ガイド第 7 版講座	4 名
	2025.2.19	PMBOK (R) ガイド講座	47 名
特別講座	2024.5.17	プロジェクトマネジャーの正しい育て方 (吉野)	11 名
	2024.6.7	アジャイル開発への道案内 (小原)	5 名
	2024.7.19	DX 時代の勘所「プログラムマネジメント現場適用」(近藤)	11 名
	2024.8.30	世界の PMO 動向 (片江)	26 名
	2024.12.13	プロジェクトマネジャーの正しい育て方 (吉野)	25 名
	2025.1.17,31	価値を創造するプロジェクトのための PMO 導入の勧め (永谷/片江)	6 名
	2025.3.8	「DX時代の現場リーダーに必要なPMの本質を『ものがたり』で学ぶ」(吉野)	9 名
PM 共催講座	2024.7.23	コンセプチュアルな組織を創るマネジメント (PMO)	1 名
	2024.8.7	コンセプチュアル思考のポイントと活用～VUCA 時代の思考法 (PMO)	1 名
	2024.9.12-13	PM標準 10 のステップ・コース (プラネット)	1 名
	2024.9.21	「影響力の法則(R)」を活かすステークホルダーマネジメントの実践 (PMO)	1 名
	2024.9.25-27	コンセプチュアルスキル入門～本質を見極め、行動するスキル (PMO)	1 名
	2024.10.24	プロジェクト知識マネジメント～質の高い振り返りでプロジェクトを変える(PMO)	1 名
	2025.3.8	コンセプチュアル思考を活用したコミュニケーションの考え方と実践 (PMO)	1 名

表 12. 東京例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
293 回	2024.5.24	原田 祥子	マイプログラム 2.0	25 名
294 回	2024.6.28	小原 由紀夫	なぜ、DX でアジャイルと日本の文化の良さが求められるか？	26 名
295 回	2024.7.26	秋山 肇	プロジェクト計画・管理のポイント	36 名
296 回	2024.8.23	羽佐間 一潮	PRINCE2 - スポンサーが関与するプロジェクト推進フレームワーク	37 名
297 回	2024.9.27	亀山 秀雄	プログラムマネジメント分野で社会人博士に挑戦	30 名
298 回	2024.11.22	羽田野 大樹	ステークホルダ管理の哲学	22 名
299 回	2024.12.20	浜本 知一	チンギスハーンにマネジメントを学ぶ	24 名
300 回	2025.2.28	柴田 知輝 森上 賢	300 回記念大会	64 名
301 回	2025.3.28	多納 聖	白井市における官民連携の取組と事例について	20 名

表 13. 関西例会

	開催日	講演者	テーマ	参加者
165 回	2024.4.26	勝連 城二	DX 時代の PM の実践的スキルとは	29 名
166 回	2024.10.18	富 光弘	人手不足の解決策は採用だけではない！	19 名
167 回	2025.1.31	弓場 啓司	データ分析人材育成プロジェクト	25 名

表 14. PMAJ ジャーナル

号	発刊月	特集等
79 号	4 月	新春 PM セミナー2024／部会 SIG 活動報告
80 号	8 月	関西 PM セミナー2024／部会 SIG 活動報告
81 号	11 月	PM シンポジウム 2024／部会 SIG 活動報告

表 15. 地域 PM 研究部会の活動報告

No	名称	活動状況等
地域 PM 研究部会	1 北海道 PM 研究部会	2024 年 7 月 12 日(金) に北海道 PM セミナー を開催
	2 中部 PM 研究部会	2024 年 10 月 11 日(金) に中部 PM セミナーを開催
	3 関西 PM 研究部会	2024 年 5 月 31 日(金) に関西 PM セミナー を開催
	4 中四国 PM 研究部会	2024 年 10 月 25 日(金) に中四国 PM セミナーを開催
	5 九州 PM 研究部会	2024 年 12 月 6 日(金) に九州 PM セミナー を開催